

# 生成AI利用に伴う 情報収集行動の変化に関する 調査報告書

株式会社 社会情報サービス

## 調査対象

病院勤務医 40名  
(呼吸器内科・消化器内科)

## 回答者属性

30代・40代中心  
(40代 45.0%、30代 42.5%)

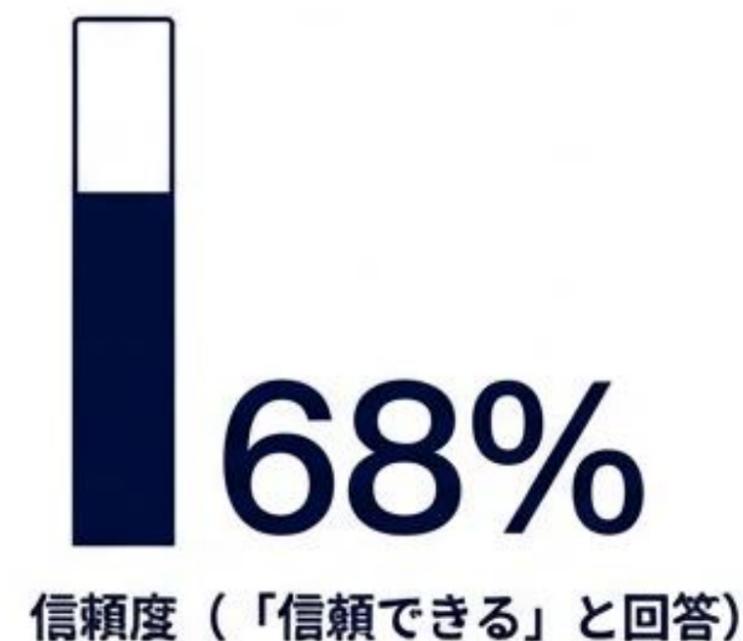
## 勤務形態

一般病院 (50.0%)、国公立病院 (27.5%)、  
大学病院 (20.0%)

調査実施期間 2025年12月～2026年2月(2回に分けて実施)



# 医師の85%が生成AIを利用し、高い信頼を寄せている



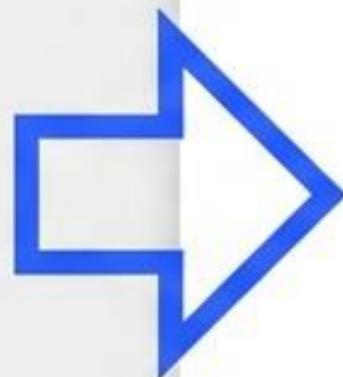
現在の主な用途: 「医療情報・医薬品情報の収集」 (75.0%)

Insight: 30代・40代の医師を中心に急速に普及しており、利便性を背景に「情報のインプット」手段として定着しつつある。

# 情報収集から「実務の自動化」へのシフト

## Current State (Input)

- ✓ 情報のインプットがメイン
- ✓ 臨床判断の補助 (50.0%)
- ✓ 研究・学術活動の効率化 (30.0%)



## Future Intent (Output/Automation)

画像・検査データの解析支援



診療録・文書作成の効率化

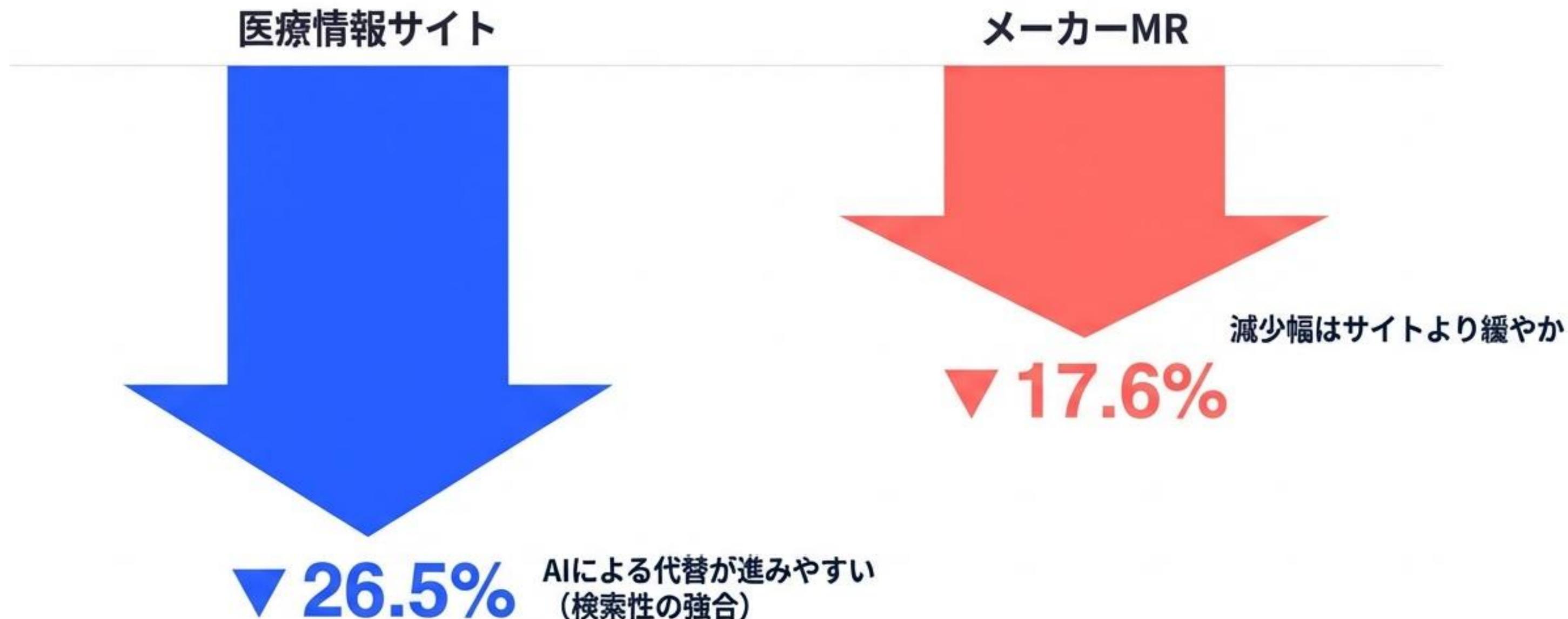


投薬・安全性チェックの補助



Insight: 単なる情報検索ツールから、診断支援や事務作業を代行する「実務パートナー」への進化が求められている。

# 既存チャネルの利用頻度は減少傾向にある



Insight: 生成AIの普及により、特に「情報の検索」を強みとしてきたWebサイトが最も影響を受けている。

# MRには「情報の伝達」以上の役割変容が期待されている

Webサイト

5.9%

変化への期待

メーカーMR

8.8%

変化への期待

WebサイトよりもMRに対し、変化への期待値が高い。  
求められる付加価値: 単なる情報の伝達ではなく、「対面での議論」  
や「個別提案」など、人ならではのコミュニケーション。

# 結論：AIとの共存に向けた役割の再定義

## 生成AI

Role: 実務的パートナー

診断支援、事務の自動化、  
専門的かつ実務的な活用。



## 医療情報サイト

Role: 差別化の追求

検索性だけではAIに代替さ  
れるため、AIが生成できない  
独自情報の提供が必要。



## MR (Medical Reps)

Role: 人ならではの専門的対  
話

頻度確保より「質」への転  
換。AIには不可能な文脈理解  
や複雑な課題解決の提供。

